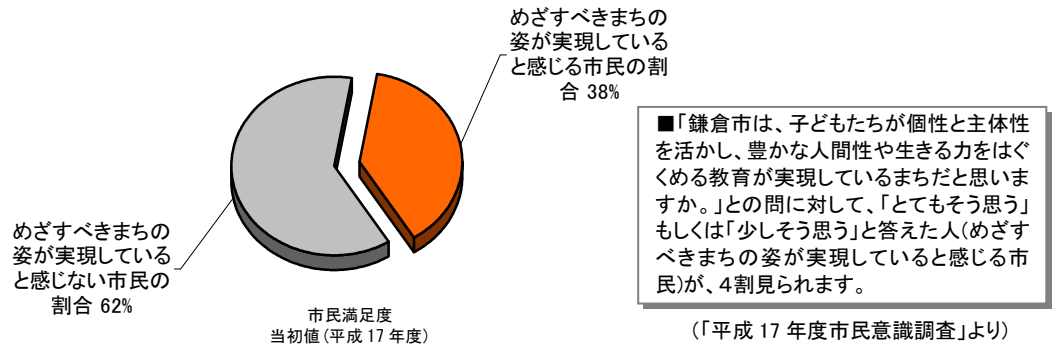


第4節 健やかで心豊かに暮らせるまち

2 学校教育

＜めざすべきまちの姿＞

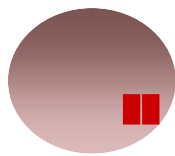
子どもたちの豊かな人間性や生きる力をはぐくめる教育が実現しているまち



■ 現状と課題 ■

- 学校は、児童生徒が安心して学び、楽しく生活できる場であることが大切です。さらに、家庭や地域の信頼にこたえ、ともに児童生徒の成長を支えていくことが重要です。そのため、学校・家庭・地域が一体となった教育の推進や地域に開かれ、特色のある学校づくりが進められる環境が求められています。
- 近年、基礎学力や学習意欲の低下が懸念されています。さらに、自ら考え、課題を解決する力をはぐくむことが重要です。そのため、基礎・基本の定着と自ら学ぶ意欲の育成を図り、国際化・情報化などの社会の変化に対応し、主体的に判断する能力をはぐくむ必要があります。
- 現代の子どもたちは運動不足や生活リズムに乱れが見られます。児童生徒に規則正しい生活習慣を身につけさせ、心と体を健やかに育成することが必要です。また、いじめ、不登校などの問題の解決が大きな課題となっています。児童生徒が安心して学べ、生活できる、安全な学校づくりの推進や支援体制の充実が求められています。
- すべての児童生徒が、人格を持ったひとりの人間として尊重され、その発達段階に応じた適切な教育が受けられるよう、一人ひとりの教育的ニーズを把握し適切な教育的支援を充実することが求められています。
- 学校施設については、教育活動の多様化に伴う整備の充実が必要です。また、安全対策、シックスクール対策*、バリアフリー化の推進など、新たな視点に基づいた施設整備が必要となっています。

シックスクール対策:教育施設で発生する化学物質過敏症をシックススクール症候群といい、新築校舎で発生するシックハウス症候群のほか、ワックスやブールの消毒剤など、教育施設に特有の化学物質によって引き起こされる病気や症状を含む。



目標

【目標】

学校・家庭・地域が連携して、児童生徒が安心して学べる地域に開かれた安全な学校づくりを進めます。

児童生徒に基礎・基本の確実な定着と自ら学ぶ意欲をはぐくむ教育を充実します。

鎌倉の特徴である自然環境や歴史的遺産、文化・芸術にふれる教育を推進し、児童生徒の豊かな人間性をはぐくみます。

児童生徒に社会性・道徳性を身につけさせ、ともに生きる社会づくりの大切さや健やかな心と体をはぐくみます。

障害のある児童生徒や教育的支援が必要な児童生徒のニーズに応じた、きめ細かな教育を充実します。

学校施設については、将来の教育環境の変化に対応し、児童生徒が健康で安全な学校生活を送る場として、また、地域における防災や生涯学習の拠点として整備を進めます。

【施策の方針】

1. 安心して学べる地域に開かれた安全な学校づくり

2. 教育内容の充実と教育条件の整備

3. 障害のある児童生徒や教育的支援が必要な児童生徒の教育

4. 学校施設の整備・充実



施策の方針

1 安心して学べる地域に開かれた安全な学校づくり

(1) 地域とともに歩む学校づくりを進めるため、体験的な学習、地域交流など地域人材やさまざまな団体の支援を活用します。

(2) 地域に開かれた学校づくりを推進するために、学校評議員制度を充実させます。

(3) 安全で安心できる学校生活が送れるよう安全教育の充実に努めるとともに、地域との協力体制を図り、情報の共有化についてのシステムづくりの研究を進めます。

2 教育内容の充実と教育条件の整備

(1) 幼児が健やかに育つように、幼稚園・保育園・小学校が連携し、教育内容の充実を図ります。

(2) 経済的な理由により就学が困難とならないように、就学援助を進めます。

(3) 学習の基礎・基本の確実な定着を図るためにきめこまかな指導方法の研究を進め、今日的な教育課題としての人権教育、国際教育、環境教育、情報教育などを推進し、教育内容の充実と施設・設備の整備を図ります。

(4) 食の正しい知識と望ましい生活習慣を身につけさせ、児童生徒の健康の基盤づくりを進めます。

(5) 教師の指導力の向上に向け、研究・研修の充実を図ります。

- (6) 社会性・道徳性を確立し、豊かな心と社会の一員としての自覚を持てるよう、教育内容、方法の研究を進めます。
- (7) 教育相談の機能を充実させるとともに、不登校児童生徒への教育的支援をさらに充実します。
- 3 障害のある児童生徒や教育的支援が必要な児童生徒の教育
- (1) 家庭・地域や医療、福祉など関係機関との連携により、障害のある児童生徒や教育的支援が必要な児童生徒のニーズに合ったきめ細かな教育を充実します。
- (2) 就学相談の充実を図るとともに、特別支援教育*を視野に入れた多様な教育形態、指導方法、内容の研究を進めます。
- 4 学校施設の整備・充実
- (1) 将来の児童生徒数の動向や学校教育を取り巻くさまざまな環境の変化、バリアフリーへの対応、環境への配慮などを踏まえた上で、地域の防災拠点、学校施設開放なども視野に入れ、計画的に施設の整備・充実を図ります。
- (2) 学校施設の改築等に当たっては、計画段階から地域との連携を図り、意見・要望の反映に努めます。

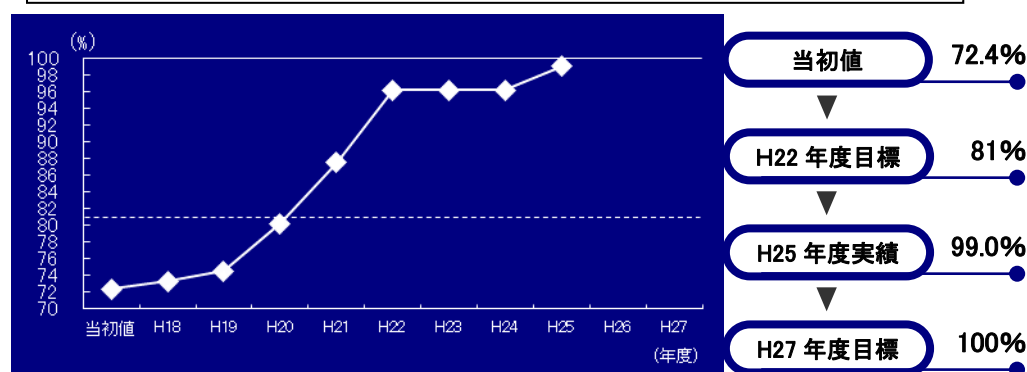


【主な所管部・所管課】

教育部
教育総務課
学校施設課
学務課
教育指導課
教育センター

■ 学校施設の耐震化率(+)【統計指標】

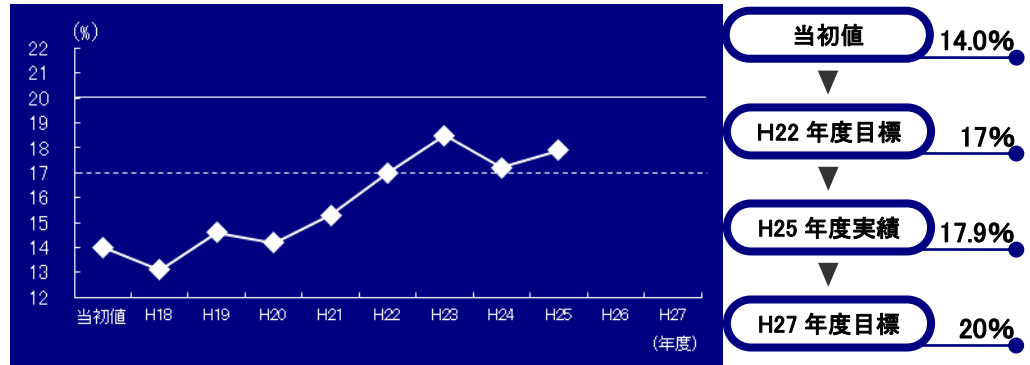
すべての学校施設のうち耐震基準に適合している建物の割合



特別支援教育: 障害のある児童生徒に対して、その一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善・克服できるよう必要な支援を行う教育。従来の特殊教育(障害児教育)の対象(盲・聾、知的障害、肢体不自由、病弱)に、学習障害(LD)、注意欠陥・多動性障害(ADHD)、高機能自閉症を加える。

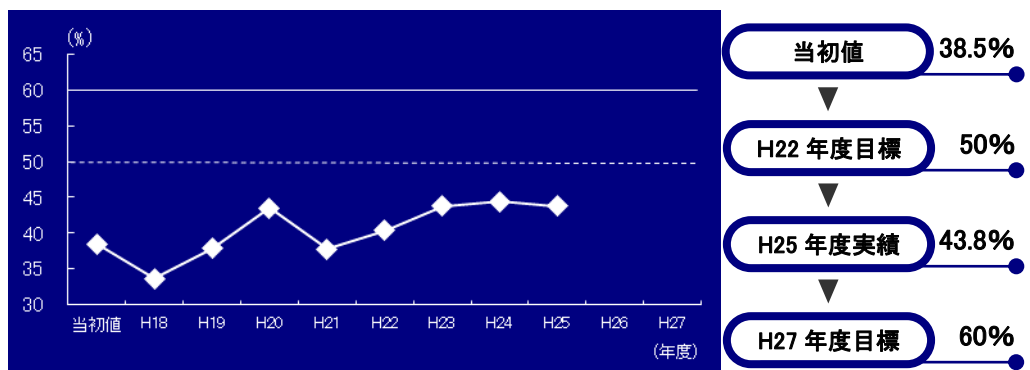
■学校教育活動にかかわった市民の割合(+)【アンケート指標】

ここ1年間に、市立小中学校で行われた教育活動(学校行事に参加、教科等の活動や部活動での指導、体験学習の受け入れ等)にかかわった市民の割合



■市民満足度(+)【満足度指標】

子どもたちの豊かな人間性や生きる力をはぐくめる教育が実現しているまちの実現状況について、市民が実感している割合



■目標達成に向けた 25 年度の実績と自己評価

【教育部】

- ・前年度に引き続き、大船中学校改築工事に係る基本・実施設計を行いました。また、既存校舎の解体工事を行いました。
- ・平成 26 年度施工予定の西鎌倉小学校北棟トイレ改修工事設計を行いました。
- ・小中学校全 25 校の非構造部材の耐震状況について点検・調査を行いました。
- ・西鎌倉小学校及び大船小学校の体育館に係る吊天井撤去等耐震対策修繕を行いました。
- ・①児童生徒の安全対策
市内小学校新一年生に防犯ブザーを配付しました。
- ・②少人数学級の充実
小学校 1・2 年生を対象に少人数学級編成(35 人以下学級)を実施しました。
小学校非常勤講師(市費)を 8 校 8 名雇用しました。
- ・③学校図書館の充実
学校図書館専門員を小学校 16 校に配置しました。
読書活動推進員を中学校 9 校に派遣しました。
- ・④特別支援学級の充実

■■評価と展開■■

西鎌倉小学校及び第二中学校特別支援学級を開設するとともに、第一中学校及び手広中学校特別支援学級の平成 26 年度開設に向けた準備を行いました。

また、今泉小学校情緒障害通級指導教室の開設に向けた準備を行いました。

・⑤特別支援教育の推進

特別支援学級補助員(1名)、学級介助員(31名)、スクールアシスタント(10名)、学級支援員(9,322時間)、日本語指導協力者(127回)を配置するとともに、臨床心理士の資格を有する特別支援教育巡回指導員3名による相談・支援を実施しました。

・欠席状況調査を継続的に行うことにより、不登校の早期発見、早期対応が図られ、平成 25 年度も不登校児童生徒数は減少傾向となりました。教育相談員、スクールソーシャルワーカーが学校や関連機関と連携し、問題の解決や支援にあたることができました。メンタルフレンドの活動は鎌倉女子大との連携により、若い世代が支援の担い手となることができました。個別支援から教育支援教室につながった生徒や教育支援教室から学校に復帰した生徒もあり、丁寧な対応で支援の充実が図られました。

■8年間(平成 18～25 年度まで)の取組の評価

【教育部】

・児童生徒に基礎・基本の定着と自ら学ぶ意欲を育む教育、また、児童生徒の豊かな人間性・健やかな心と体を育む教育に努めてきましたが、市民の満足度の目標値にはまだ到達していません。

「めざすべきまちの姿＝子どもたちの豊かな人間性や生きる力をはぐくめる教育が実現しているまち」に対する市民の満足度を高めるためには、引き続き教育内容の充実と教育条件の整備に取り組み、子どもたちの「生きる力」を育む教育の向上を市民が実感できる施策を行う必要があります。

■25 年度までの未達成事業の課題・問題点など

【教育部】

・特別支援教育充実に向けた取組を進める上で、特別支援学級全校設置のための施設整備も必要となりますが、少人数学級編制や少人数指導の実施に伴い、普通教室の必要性も高まっていることから、教室の確保が困難な状況となっています。また、特別支援学級の整備については通常行われている学校の教育活動に支障のないよう、地域や学校、関連各課と綿密な調整が必要です。

また、さらなる教育内容の充実や学習意欲の向上に向け、きめ細かな指導及び支援を行うため、スクールアシスタントの小学校全校への配置や学級支援員の派遣など人的支援の更なる充実を図る必要があります。

・教育相談員、スクールソーシャルワーカー、心のふれあい相談員等の配置時間の増加をめざします。

教育センターの施設と教育支援教室が分散していることによる連携不足の課題を解消するために、教育センター機能を一元的に管理できる施設の早急な確保について検討します。。

■第3期基本計画の施策の方針における今後の展開(取組方針)

【教育部】

《学校施設の整備》

・平成 27 年度末までに大船中学校改築事業を完了し、耐震化率 100%をめざします。

・平成 25 年度に実施した非構造部材の耐震状況点検・調査結果に基づき、耐震対策を要すると判定されたものについて、改修工事又は修繕を実施します。

・未改修の学校トイレについて、順次、計画的に改修工事を進めます。

・普通・特別教室への冷房設備設置に係る事業手法等について検討します。

《教育内容・教育環境の充実》

・子どもたちの「生きる力」の育成を支える「確かな学力」「豊かな人間性」「健康な体力」を育む教育の充実を目指し、教職員の指導力の向上を図りつつ個に応じたきめ細かな教育を進めます。

また、学校が、家庭や地域と協力して、子どもが安心して学べる地域に開かれた安全な学校づくりに取り組んでいくとともに、障害のあるなしに関わらず、特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりの教育的ニーズの把握に努め、個に応じた教育が行えるよう、特別支援教育充実に向けた取組を進めます。

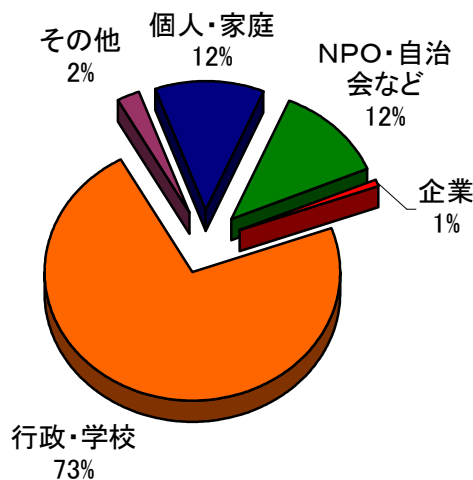
・教育相談機能の充実、スクールソーシャルワーカーの活用、関係機関とのネットワークの構築等により、不登校児童生徒への教育的支援やいじめ問題への対応等、多様な課題の解決に取り組んでいきます。

市民等と行政の協働

■市民・事業者・NPO等と行政の協働目標

- 地域全体で児童生徒の安全を守る意識を持って行動します。
- 家庭、地域と協力して、子どもたちが安心して過ごせる安全な学校環境にするための取り組みを進めます。

参考：市民が期待する各主体の役割の大きさ



(「平成 15 年度市民意識調査」より)

外部評価結果

鎌倉市民評価委員会による評価

この分野の8年間の取組は、十分であった。

この分野の8年間の取組の進捗状況・取組のあり方に関する意見

- ・鎌倉市の学校教育は専門家との連携等、かなり先進的に進められてきていると思われる。一般的な評価も高いと聞いが、私学に進む子どもが多いという点も今後留意していく必要がある。
- ・小学校1・2年生を対象に少人数学級編成(35人以下学級)を実施した。特別支援学級補助員、学級介助員、スクールアシスタント、学級支援員、日本語指導協力者を配置したことなど、

着実に進められており、評価できる内容である。

・この分野は教育の内容の充実をイメージするが、施策のほとんどが学校環境の充実と整備である。その点では耐震化も含め十分努力していたと評価できる。耐震化率が 99.0%まで達成し、学校関係者及び地域住民に安全・安心感をもたらしている。しかし、依然としてインフラ整備主体の事業と受け取れる。

・学校教育の分野も課題が多く、何れも軽重をつけ難い。多くの関係者が尽力されているが、その成果が現れるまでに時間を要し、かつ、合理的評価の難しさがある。

・人的支援も拡大しており今後の施策に期待する。

第3期基本計画に向けたこの分野に関する意見

・教育には抱える社会的問題(不登校、いじめ等)も多く、市だけで解決できない要素も多々あるので、県、国との連携の中で進めていってほしい。

・学校内でそれぞれの立場の人間が孤立することなく、意思疎通して欲しい。問題行動については第三者のサポートが必要である。

・教育相談員、スクールソーシャルワーカーによる学校や関連機関との連携など、今後も、問題の解決や支援を進めるべきである。また、教育の専門家による相互の問題意識の共有や情報交流も必要である。合わせて、教員側のメンタル相談も行う必要がある。

・特別支援教育への支援は未だ不十分である。少人数制や支援に必要な専門家の積極的な投入など、鎌倉市の手厚さを如何に実現できるかが期待される。

・必要な学力や体力、道徳教育を確実なものに育成する。

・自分の身は自分で守ることができる児童生徒を育成する。

・行政だけで行える事業には限界があるため、PTA や教育委員会、その他の専門家との協働による事業をコーディネートする事業展開を行って頂きたい。

この分野の指標に関する意見

・満足度の当初値 38.5%が低いので目標値を 50%及び 60%に引き上げたが、実績は平成 25 年度で 43.8%と低調である。これには「わからない」などと回答した人が 37.6%いる。原因は設問時の情報提供不足と思われる。

・子育てを終わった人たちが今の教育の満足度に回答するとしたら何を基準とするのかを考察し、指標を検討して頂きたい。

・耐震化への評価と教育活動への参加率は上昇しており、教育への関心の高まりは予測できる。しかし、耐震化はほぼ終了しており、今後の指標とする必要は無い。また、インフラに関する指標よりも、本来の教育内容と、教育事業が行われた結果(不登校児童の減少など)を指標とすべきである。子ども達の豊かな学びを今後も保証して欲しいものである。

・学校教育の活動に関わる市民の割合が低いので、父兄や地域市民がもっと関わる必要を感じる。

・欠席状況調査の継続的实施、不登校の早期発見、早期対応が図られ、不登校児童生徒数は減少傾向となったことなどは良い取組であると思う。

この分野に関する総括意見

・最近の中高年及び若者の犯罪事件に接するたびに、幼児期、学齢期の教育に問題がなかったか自問することが多い。ライフステージのなかで教育がどういう役割を果たすべきか今一度振り返ってみる必要がある。

・特別支援学級の設置について、少人数学級編制や少人数指導の実施に伴い、教室の確保

が困難な状況にあること等が懸念される。

- ・教育環境の整備に留まらず、鎌倉市の独創的な教育、鎌倉市の歴史環境を積極的に守り継承できる子どもの成長発達を進める教育の充実を期待している。
- ・学校教育については、「しつけ」など従来は家庭内教育で行うべき内容まで学校に求められている。どのようにこれらの教育を行っていくのか？教員だけで行う事が困難な事については、PTA や教育委員会と連携し、それぞれの役割を確認し、分担していく必要があると思われる。
- ・親子、先生という固定された関係だけでなく、世代を超えて学校現場に関わることができると視野も広がるかもしれない。女子大との連携などが良い例となつて今後につながることを期待する。
- ・生きる力と他人を思いやる心を養うことが必要である。確かな学力・豊かな人間性・健康な体力がそれを支える。
- ・教育関係者間の意見交換・情報の共有化が一層求められる。私学とも情報の交換が望まれる。

実施計画

- 学校の安全対策(4-2-1-①)
- 児童生徒の安全対策(4-2-1-②)
- 学校施設の開放(4-2-1-③)
- 少人数教育の充実(4-2-2-②)
- 学校図書館の充実(4-2-2-③)
- 不登校・いじめなどの相談支援体制の充実(4-2-2-④)
- 課題解決能力向上研修の実施(4-2-2-⑥)
- 特別支援学級の全校設置(4-2-2-⑦)
- 小中一貫教育の推進(4-2-2-⑧)
- 中学校給食の導入(4-2-2-⑨)
- 特別支援教育の推進(4-2-3-②)
- 学校教育環境の充実(トイレ等改修)(4-2-4-④)
- 学校施設の改築(大船中学校)(4-2-4-⑧)
- 学校教育環境の充実(空調設備設置)(4-2-4-⑨)
- 学校施設の増築(御成小学校)(4-2-4-⑩)
- 学校教育環境の充実(教材・教具の整備)(4-2-4-⑪)
- 御成小学校旧講堂の保存と活用(4-2-4-⑫)
- 学校施設(非構造部材)の耐震対策(4-2-4-⑬)

個別計画

■[かまくら教育プラン](#)

事務事業評価

- 教育委員会運営事業(教育-01)
- 事務局運営事業(教育-02)
- 小学校運営事業(教育-03)
- 小学校施設管理運営事業(教育-04)
- 特別支援教育事業(小学校)(教育-05)
- 中学校運営事業(教育-06)
- 中学校施設管理運営事業(教育-07)
- 特別支援教育事業(中学校)(教育-08)
- 学校施設管理事業(教育-12)
- 小学校施設管理運営事業(教育-13)
- 小学校施設整備事業(教育-14)
- 防災対策事業(教育-15)
- 中学校施設管理運営事業(教育-16)
- 中学校施設整備事業(教育-17)
- 防災対策事業(中学校)(教育-18)
- 教職員運営事業(教育-19)
- 保健事務(教育-20)
- 就学事務(教育-21)
- 保険事務(教育-22)
- 給食事務(教育-23)
- 教育振興助成事業(小学校)(教育-24)
- 教育振興助成事業(中学校)(教育-25)
- 教育指導事業(教育-26)
- 情報教育事業(教育-27)
- 教育支援事業(教育-28)
- 教育課題対応事業(小学校)(教育-29)
- 教育課題対応事業(中学校)(教育-30)
- 相談室事業(教育-31)
- 調査研究研修事業(教育-32)
- 教育情報事業(教育-33)

関連リンク

- [■生涯学習・学校教育\(文部科学省\)](#)
- [■より良い教育を目指して\(文部科学省\)](#)
- [■学校教育に対する取組紹介\(文部科学省\)](#)